



# ピッポ新聞

2008

2

No.228

年間購読料 (送料込み) 1500円

編集・発行 伊藤俊男

子どもの本専門店

## ピッポ

〒424-0886 静岡市清水区草薙1-6-3

TEL &amp; FAX 054-345-5460

URL <http://www.pippo.co.jp>E-mail [itoh@pippo.co.jp](mailto:itoh@pippo.co.jp)

### 「冷凍餃子」から 垣間見えたもの

このところ、あらゆるメディアを通じて、中国の「冷凍餃子」のことがセンサーショナルに報じられています。ここから、現在のこの国の危うさを垣間見ることが出来ます。もちろん当面は、なぜ農薬が混入したかを明らかにし、その危険を速やかに除去することが大切ではありません。

しかし、メディアの報道からは、なにやら、寄つてたかつて中国の食品が悪いと言い立てているだけなようにおもえます。スポーツ紙のなかには「食品テロ」などという見出しも踊つていますね。

テレビを見ていたら、石原都知事は「独裁国家中国が云々」と、日頃の中国敵視観をあらわに口汚く非難していたけれど、こういうときに偏狭な人間性が表れるのだと思いました。わたしたちは、こんな愚劣な扇動に惑わされてはいけません。

必要なのは、状況を正しく認識することであり、かつ、問題を掘り下げてかんがえることなのです。

問題は、なぜな多くの食品輸入を、安全性が不安な中国に頼らざるを得ないかを、問うことからはじめなければなりません。センサーショナルな報道に引きずられて狭義なナシヨナリズム

を振りかざすことではないでしょう。

いまやこの国の食糧自給率は39%で(これは先進7国中の最低の自給率です。ちなみに農林水産省統計によると2番目に低いイギリスでさえ74%、カナダは142%・フランス130%・アメリカ119%・ドイツ91%だそうです)あと61%は外国に依存しているという事実の認識こそがまず大切なのです。その輸入の大部分をアメリカと中国にたよっているのです。

考えてみれば、これほど危ういことはないじゃないですか。

わたしたちは国の安全保障というと、軍事的なことのみ考えがち(そうし向けられている)です。しかし、もしアメリカや中国に食料輸出をストップされたら、どうなるのでしょうか? 両国がその気になれば、武器など使わずとも、この国はお手上げになることでしょう。

真剣に日本の「安全保障」を考えるならば、食糧対策こそ、政治が取り組まなければならない急務なのです。

政府は「安全保障」がどうだの、「こうだの」と言つては、我々の血税を軍事費として膨大に浪費しています。今、アメリカ軍とやっているミサイル防衛システムの構築など無駄の最たるものです。

この軍事費の何割かを自給率アップと「食の安全性」のために回せば、軍事費よりも効果的な「安全保障」に役立つことは明らかです。

ところで、あんなに大騒ぎしていた防衛省汚職問題はどうなってしまったのでしょうか? 政治家を逮捕、という話はいそぎませんが・・・。

見方によっては、わたしたちはこの国の殺生と奪をアメリカや中国に握られているといっても言い過ぎではありません。

## 日常の暮らしから 眺めてみると

この「冷凍餃子」問題は、わたしたちが日頃あまり意識しないことからいろいろ想起させてくれました。つぎに、日常のわたしたちの暮らしの視点から考えてみましょう。

今度のように「農薬入り餃子」という異常事態であれば、緊急に対処しなければならぬことでありますから、だれでもがその結末に関心をしめます。しかし、余り目立たないが、「食の安全」にとつてむしろ表面にあらわれてはこない、しかし重要なことがいろいろあるように思います。このことに少し注意を向けて見ることにしましょう

現在では、コンビニやファミレス、はたまた学校給食の食材までも、安いということとを最大の理由として、輸入食品が多く使用されています。こういうことは普段は余り意識されませんが、今度のことによって多くの人が再認識したはずで

しかし、たとえばアメリカからの輸入食材の中には、遺伝子組換えの大豆やトウモロコシを使って彼の地で加工された食品や、またこの遺伝子組換え穀物を飼料として育てられた牛の肉などが混ざって輸入されているかもしれないのです。

しかし、ここでおどろくのは、輸入国である日本がこれをチェックする方法も法的根拠もないのだそうです。これらの輸入食品をコンビニ・ファミレス・スーパーなどで売られたり売られたりしている可能性があるので。しかし、本当のところははっきりしないのです。

少し前に大騒ぎした、米国のBSE問題は今は本当に大丈夫なのですか？

先日テレビで、「へたり牛」を薬物で一時的に歩けるようにし、誤魔化して出荷していた米国の牧場のことをやっていました。が、そんなのが日本に再び入ってこないと断言できませんよね。こういうことにもあまりにも私たちは無防備に過ぎているではありませんか。

## 消費者として もっと考えましょう

事程左様にこの国の食の問題は危険がいっぱいなのです。問題が発覚するたびに、センセーショナルな報道がなされます。

いまのようなメディアの報道姿勢だと、すべての中国からの輸入食材が危険だと、多くの人は思うことでしょう。テレビインタビュに答える消費者も、すでにメディアに同調して、「もう中国産は恐くて買えません」などと答えています。実際に多くの消費者は中国産を買い控えているようです。

これって、自己矛盾に陥りませんか？すでに中国からの輸入食糧なしでは日本の食

卓は成り立ちませんよ。

これだけで終わってしまったのでしょか？政府に食の安全性の根本的な解決を迫らず終わってしまったのでしょうか？

今度の「冷凍餃子」問題も、わたしたち消費者はBSEのときのように喉元過ぎれば忘れてしまうのでしょうか。

そういえば、数日前(2月7日)「赤福」の販売を再開したニュースが伝えられましたが、これを買うために徹夜で並んだ人がいたようです。ぼくはこれを見て、なんて「おめでたい」ヤツだろうとおもいました。それともあれは「赤福」が雇った回し者であつたかな？

わたしたち消費者も、ある程度「食の安全」を問題にするのであれば、賢い消費者としての自覚が必要ではありませんか？便利だから、楽だからといってコンビニのおにぎりや弁当を利用することなど考えものです。

## これが日本と世界 食糧問題の現実！

ここでまた視点を変えて、さらにこの問題について考えてみます。

8億4千万人？この数字は何を表していると思いますか。

これは現在貧困と飢えのために十分な食事を採ることができない人(飢えて苦しんでいる人)の数です。さらにこんなショックな数字もあります。2万5千人。この数

は飢えと貧困が原因で世界中で毎日亡くなっている(国連食糧農業機関による)人数です。その多くはアフリカやアジアの途上国の人びとです。

その一方では、世界一の食糧輸入国である日本では、コンビニやスーパーなどの弁当や惣菜などは、その何割かを予め捨てる(売れ残り)ことを前提に作られているのです。

こんなことがいつまで許されると思えますか? ぼくは先程の深刻な現実の前では、こういうのを、神をも恐れぬ所行だと思うのです。

あなたは、これらの人(飢餓や栄養失調で苦しむ人たち)を前にして、この日本の現状を、かれらに伝える勇気がありますか?

今は金持ち(??)日本ですから、世界中から食糧を輸入することが可能です。ですが、これがいつまでも可能だと考えるのは、あまりに楽天的すぎるではありませんか。

経済発展めざましい中国(13億人)やインド(11億人)は、人口もまだ増え続けている国でもあります。特に中国は今日本に食糧を輸出していますが、増加する人口と、発展する経済力に見合った人民の食への要求は、量と質とがますます高まってくるでしょう。いつまで輸出が可能でしょうか? 小麦粉やトウモロコシなどの穀類は輸入国でもあるのです。

また日本の食糧輸入の最大国であるアメリカだって、年々農業生産高は減少しています。大規模農業による化学肥料の大量使

用による土質の変化や、土地の砂漠化による弊害、さらに天候不順が原因なのです。

カナダ・オーストラリアなどの穀物輸出国だって、地球温暖化の影響でいつまでも安定的な供給ができるとは限りません。

第一、世界的な需要が増えることによつて、石油のように投機資金が流れ込んで(一部では始まっている)価額が釣り上げられる心配もあります。

それに日本ばかりが金にあかせて世界の食糧を大量に買い続けることは、世界的に許されません。

そうなのです、食糧を巡っては不安に満ち満ちているのです。

だからこそイギリスは、一時は自給率60%まで低下したのに、政府の政策よつて現在では71%まで高められたのです。ところが産業経済界(財界)優先のこの国は、自給率が下がっても真剣にその向上に勤めるどころか、米の減反政策は、いまだに続けられているのです。

## 食糧輸入と地球温暖化

さらにわたしたちが考えなければならぬことは、今や世界中で地球温暖化による影響が心配されている中、これらの食糧が世界のいたる所から船や飛行機で運ばれてきていることです。

世界一の食糧輸入国の日本は、これを運んでくるために使用する燃料消費も群を抜いて世界一なのです。このための地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出量も飛び

抜けて一番多いことを、わたしたちは認識しなければなりません。

先日ぼくは「NOVA(地球)」という映画を見ました。映画は期待したほどではありませんでしたが、テーマは「地球温暖化」です。印象的だったのは最初と最後に登場するホッキョクグマです。アザラシなどを主食としているホッキョクグマが、温暖化によつて、氷の溶けるスピードが早いため、海が早く開いてしまい捕獲しにくくなり、飢えていく姿でした。

温暖化は人間のみならず、地球上のあらゆる生き物に悪影響を及ぼしています。最近よく耳にするキャンペーン「車のアイドリングは止めよう」「電気はこまめに消しましょう」「水道の蛇口もこまめに切りましょう」聞くところでも簡単に実行できます。ぼくもこれに賛成です。

けれど、だれも言い出さないが、簡単でもっと効果的な二酸化炭素削減の方法をぼくは提案したいと思います。

それはコンビニやスーパーなどの終夜営業を法律で規制することです。午前12時から午前6時まで営業禁止にするのです。そうすれば効果は大きいと思います。これほど大規模に24時間営業をしている国は、日本以外には世界のどこにもありません。

さて、食の安全を政府にきちつと要求することと同時に、自給率アップのためにみんなが智慧を出し合いましょ!

ちなみに全国の復元可能な遊休農地は約24万ヘクタール(農林水産省統計)だそうです。

# 福音館書店から重版3点

## 「谷川俊太郎の 「かがくのとも」傑作集

『こつぶ』（谷川俊太郎・文 今村昌昭・写真 日下弘・AD 880円）  
だれもが使うコップ。これをさまざま視点から、詩人谷川俊太郎が言葉で表す。冒頭は「こつぶは水を飲むためにある」などという平凡な表現ではもちろんない。

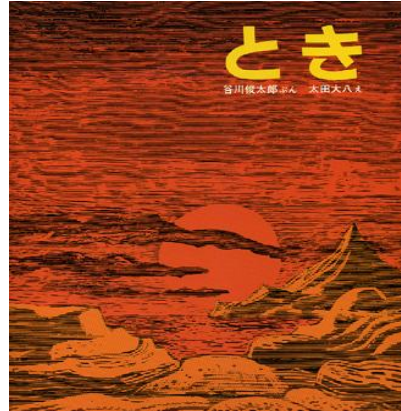


「こつぶはみずを つかまえる」と表し、水が入った写真がそえられている。続いて「こつぶは けむりも つかまえる」といい、

ふせられたコップには煙が映っている。3場面目は「こつぶは はえを つかまえる」とつぶき、だれもが一度は経験がありそうな展開に、そして「こつぶは はんにんもつかまえる」と、指紋が付いたコップを写す。読者の意表をついたのである。さらに「。読んでいるごちらは」「まじうーうまい！」と声をかけたくるのである。

『とき』（谷川俊太郎・文 太田大八・絵 880円）

とき（時間）の経過を子どもたちに伝えた絵本の名作に「ちいさなおうち」（バー



トン・作 石井桃子・訳 岩波書店）があるが、この絵本「とき」も時間の経過を簡潔に子どもつたえてくれる1冊である。ビッグバ

ンから始まり恐竜時代、狩猟時代、平安時代・・・と、移って、そして現在に。この絵本、太田さんの簡潔で無駄のない絵がとても良いのである。それと、「おおむかし、そのまたおおむかし」とか「おおむかしのもつとむかし」などという谷川さんの表現が面白い。

『きもち』（谷川俊太郎・文 長新太・絵 880円）

この絵本、谷川さんの文が出てくるのは、終わりのほうの4頁だけ、後は長さんの絵だけで表されている。文字のない部分の絵は、子どもの仕草や表情や背景の色などで「きもち」がよく出ている。そして、子どもは様々な場面で良く回りを見ていること

にも気付かされるのである。ところで、この絵本は先に絵ができて、それを谷川さんが



見ながら文をそえたものだろうか？ それとも、谷川さんが先に文を書き、長さんが後から絵を描いたものだろうか？ はた

また、両者が話し合いながら、この絵本はうまれたのだろうか？ などと考えてしまいました。2人の傑作「わたし」（かがくのとも傑作集 880円）も楽しい絵本です。

### 編集後記

今更ながらとおもっのだが、意味が同じや、似ている言葉であっても使い方によって受ける印象が随分違うものだ。メディアでは「女性」が、容疑者や犯人になると、とたんに「女」という表現に替えられる。女性アナウンサーが「この女は・・・」などとしやべると何故か奇異に感じてしまう。今回の「冷凍餃子」の枕詞も「毒入り」「毒薬」「農薬」「殺虫剤」「防虫剤」などメディアはにぎやかである。笑ってしまったのは「防虫剤」これは四国のスーパーで見つけたものが、スーパー清掃のたぬ業者が使用して袋に付着したらしい。とたんに柔らかな表現「防虫剤」というのに替わった。どうやらメディアもかなり感情的な言葉使いなようである。